

# 新会長に聞く

一般社団法人日本陸用内燃機関協会

会長 笠井 雅博 氏

富士重工業株式会社（スバル）

取締役 専務執行役員



一般社団法人日本陸用内燃機関協会（略称・陸内協、LEMA、東京・市ヶ谷）の新会長として、5月25日付けで就任した笠井雅博（かさい・まさひろ）氏への記者団インタビューに、このほど、参加する機会を得た。会場は笠井氏が取締役・専務執行役員を務める富士重工業株式会社（スバル）本社ビル7階会議室。陸用エンジン業界を牽引していく笠井氏に今後の抱負などを聞いた。

**本誌 自動車メーカーでのご経歴についてご教示頂けませんか？**

**会長** 富士重工業株式会社（スバル）へ入社してから、今年で39年目を迎えますが、陸用エンジンにかかわる業務は今回が初めて。入社以来38年間、自動車の製造部門にかかわる業務に携わってきました。車の設計にかかわるアイデアを、日米にある当社の組立工場はどう具現化していくのか。それに取り組んできました。

**本誌 座右の銘、モットー、ご趣味などご紹介頂けませんか？**

**会長** モットーとしては、「新しい仕事にも飛び込んで一所懸命にやる！」ということです。私は昭和29年（1954年）9月、東京都保谷市（現在の西東京市）で生まれ育ちましたが、入社以来、当社の製作所の近隣に移り住み、通勤しています。今年4月に、陸用エンジンを所轄している当社の埼玉製作所（埼玉県北本市）のそばに引っ越ししました。「オンサイト」で仕事に打ち込みたいからです。

趣味については、「木工工芸」「ゴルフ」「読書」など多趣味です。最近は、読書の時間が楽しみです。

**本誌 陸用エンジン業界ならびに貴協会の課題についてご教示頂けませんか？**

**会長** 陸内協とは、大変歴史のある陸用エンジンの業界団体です。協会設立の趣旨も、大変崇高な理念を掲げています。当協会としては、世界市場において、今後日本の陸用エンジン業界の地位向上をどのように図りながら、会員企業の社業発展の一助を担っていただけるのか、これが、今後取り組むべき課題であると認識しています。

**本誌 陸用エンジンの国内外市場への展望をお聞かせ下さい。**

**会長** 陸用エンジンの世界最大のマーケットはアメリカ市場です。アメリカ市場においては、アメリカ経済の景況の変化や大統領選の結果により、日本のエンジンメーカーの営業成績や販売実績が大きな影響を受けることでしょう。

また、アジア市場において注視すべきは、経済成長のピークは過ぎたとも指摘されますが、やはり中国。多くの日本企業が中国に生産拠点を開設しており、中国の経済の潮目・国内景況の推移は大いに注目される動向だと思えます。

さらに、EU市場においては、イギリスのEUからの離脱か存続かという国際問題（※イン

タビュー時点)を抱えています。EU域内の共通通貨であるユーロの信用度の上昇・下降が日本の株式市況にも大きな影響を与えるため、イギリスの行方が最大の関心事になるでしょう。

一方、日本市場の陸用エンジンの動向について述べます。ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンを合わせた生産台数については2015年の暦年で1,406万台。対前年の比率では98.7%で1.3%の減少となっています。今後、全体的にはやや苦戦の状況が続くと考えていますが、災害復興の場面や、2020年の東京オリンピック開催に向けた特需も発生すると考えられ、注視していきたいと考えます。

### 本誌 陸用エンジンに今後求められる特性とは何でしょうか？

**会長** そうした世界市況の中で、各国共通の動きとして、自国での環境意識の高まりを受けて、環境保全を推進していく方向性が見受けられます。こうした市場の変化を受けて、技術的トレンドとして、エンジンメーカーや業界団体においては環境対応が重要な課題となることでしょう。陸用エンジンの環境特性を改善し強化していく取り組みの実施と、具体的な成果が一層求められると認識しています。

### 本誌 貴協会の注力事業についてお聞かせ下さい。

**会長** 陸内協においては、平成28年度事業計画の4本柱として、「1. 環境保全への対応」「2. 技術情報の発信」「3. 統計資料の公表」「4. 会員サービスの強化」を掲げています。

特に環境保全への対応では、「IICEMA(国際内燃機関工業会)」との協調を図りながら、陸用エンジンの海外市場の動向に関する情報を収集し、分析を進めて参ります。

また、陸用エンジンの技術基準や国内規格の標準化を推進し、統計資料の作成や拡充にも取り組んで参ります。それにより、世界市場の動静に一步も遅れをとることなく、会員企業の新たなニーズの開発に寄与することができればと思っています。

### 本誌 日本の陸用エンジンのプレゼンス(存在感)についてどう評価されますか？

**会長** 日本メーカーの陸用エンジンはまだまだブランド力を保持しています。海外市場でのプ

レゼンス(存在感)は高いと思います。製品に冠された「製造事業者名」は、生産先がどこの国の製造工場であっても、製品の品質保証に関しては最終責任を負う「保証事業者名」でもあります。すなわち「最終ブランド名」が製品への品質保証を裏付ける「与信」となっています。

### 本誌 エンジンメーカーが抱える課題について、ご教示頂けませんか？

**会長** 会員企業が携わっている陸用エンジンは容易な操作性と高効率という経済性の両面から、全世界で高い評価を頂き、ご愛用頂いています。エンジンを製造するメーカーに対する課題としては、より高いパフォーマンス(費用対効果)と、より低いコスト(生産費用)の両立が求められています。

その意味で、人件費の割安な海外の工場により安価に製造することが重要となり、現に日本メーカーの多くは生産拠点の中核をアジア地区に置いています。製品価格に影響を与える要因の1つとして、為替リスクの問題がありますが、さりとて為替の変動に連動させて海外の生産拠点をあちらこちらへ、こまめに移転させることは現実的な対応ではありません。

日本の陸用エンジンの世界市場でのプレゼンスを一層高めていくためには、生産サイト(場所)がどこであっても、「日本メーカー」という企業ブランド自体のプレゼンスを高めていくことが重要です。それと同義であって、「日本での製造」ということに、ことさら拘泥することではないと考えます。

### 本誌 陸内協の新会長として今後の抱負をお聞かせ下さい。

**会長** 陸用エンジン業界のプレゼンスを高めることと、会員各社のさらなる発展・繁栄に資することが大きな目標です。そのためには、まずは陸内協の事業計画の中で示した、会員サービスの強化など「4本柱」を推進していく。

インドで今年開催される「IICEMA」大会に向けて、日本の陸用エンジンの世界市場でのプレゼンスを高めるため、日本からさまざまな情報発信を積極的に仕掛けていきたい。

**本誌** 本日はありがとうございました。